

# 42 破天荒

令和 二年度版  
創刊  
第三十八号

## 「二週間の充電期間を経て」

本日十八日、相生高校では二週間の充電期間を経て、再び学校の二学期が動き出します。とは言え、まずは午前中ですが。午後からは、三者面談が始まります。僅か二週間ではなかなか成果を感じるまではいかず、より不安な気持ち先立ち、弱音を吐きがちです。その結果、安易に早く決めることができる進学先を、第一志望と思いつくケースもよくあります。注意してほしいことはただ一つ、「安売りをしない」ことです。勿論、自分磨きをせずに理想だけを掲げているのは論外ですが、正直に言うと、受験競争はようやくスタートを切ったところです。わずかな期間で成果を上げられるならば、この世に「努力」という言葉など存在しなくなるでしょう。

### 現実を知る

### 理想とのギャップを計る

### 勝負を挑む

### 諦めない

「長い」と言っても、たかだか半年です。我武者羅に突っ走ることができない「いま」を闘わずに、人生のいつを闘うのでしょうか。

### 勝負の二学期

幕はまさに上がったところです。

## 本屋さんへ行こうその2

良い問題集に出会うことはできましたか？

出会った問題集の進み具合はどんなものですか？

まだ出会えていないという人もいますか？

本は歩いてきませんが、訴えてはきます。サインを見落とさないで。

## 今なすべき学習方法(経験則より)

### 1. 演習に偏らない

この時期は地力をつける時です。闘うための知識が充実していない中で、演習ばかり繰り返していると、いつまで経っても点数が伸びず、心が折れます。そして、気付けば模試がクイズ仕様のようになって模試のたびに、好不調の波が激しく自信を得ることが難しくなります。

今もあるようですが、日栄社と言う会社の分野別演習問題集を、受験生夏休み当時には好んで利用していました。何故か？一冊が安い(安かった)、薄い(薄かった)、30日間完成と、魅力的な表題であったため、学習をしている達成感を強く感じさせてくれて、勇気をくれた問題集でした。単元毎の表題の為、知識の整理がしやすかったです。

例えば1時間のサイクルの中で、前日演習した内容の30分間知識整理・次の単元の10分間演習トレーニング・15分間見直し振り返り・5分間レストで、メリハリをつけたリズムが完成されると思います。(国語・英語について)

### 2. 復習を学習機会に

左とは異なりますが、演習をベースにして、その後に行う復習を、知識の積み重ねに利用するというのもやりました。

理系にとっての地歴公民、文系にとっての理科基礎科目というもの、大学入学共通テストではポイントゲッター科目として重要であることは理解できるけれど、なかなか積極的に学習時間配分をしない科目でもあります。

これらの科目は反対に、制限時間を付けたテスト形式の演習を行い、その見直し・知識整理を必ずノートにまとめるという形で復習からの受験勉強ということで、カバーしました。

読み取りの多い大学入学共通テストですが、知識のない闘いは勝負が成立しません。いろんな出版社から、一問一答形式の本が出ていていると思います。電車・バス通学の人には、最強の「受験の友」であると思います。

ただ、行き過ぎて、他のお客様の迷惑だけにはならないように注意しましょう。

(理系地理・文系理科基礎について)  
(私の折は、現代社会・理科Iなる科目の学習法でした)

### 3. 時間制限の中で解くしかない！！

特に文系のキャスティングボードを握る数学については、時間制限の中で、解く練習をするしかない。ただし、闇雲にやるのではなく、自分の得意とする分野・強化すべき分野・苦手だが零点を克服する分野を分析し、日によって、行う範囲を変えること。

特に、共通テストまでと言う人は、長文に一から十まで付き合わず、流れに乗ってキーワードを繋いでいきながら、使える公式をイメージして解いていこう。いたずらに、データの問題に引っ張られない。

一問完成を目指すより、全体のうちの小問と考えて、取れるべき点数集合を掻っ攫うイメージで、練習用演習問題を行ってほしいものです。他教科と異なり、内容の見直しだけでなく、何分ぐらいの時間浪費が必要かの分析をすること。

これほど割に合わない教科科目で成果(点数化)を出すにはかける時間も作戦として必要です。

(数学について)

### 4. ストロングポイントの確実な点数化

文系の地歴公民、理系の理科2科目(あるいは数学)については、人に言われるまでもなく、普段の授業で取り組んでいる方法で、興味の高さを前面に押し出して、受験勉強ができます。(できました。)

私にとっては、数学は裏表となった、解けない悔しさと解き切った征服感を持ち続けた闘いでした。物理は、数学の公式化を図っていく感覚で、問題の解答整理をしました。

「前田の物理」に助けて頂いたなあ。化学は、知識の積み重ねのための授業ノートの再整理と、数学・物理に少ない単純かつ細やかな計算ミスを引き起こさないことの闘いでした。

ぼんやり・ほんわかでなく、きちんとした整理をすれば、高得点に繋がられると信じて、夏から秋は過ごしました。勿論、模試の見直しの徹底も上手く利用できたと思います。

文系の皆さん、ごめんなさい。恐らく、文系地歴公民も、似た感覚だと思います。(得意科目について)

時が流れても  
~Even if times go by~

